

広報ふたば



埼玉県加須市と 友好都市の盟約を締結しました



11月3日、いわき市植田町において埼玉県加須市と双葉町の「友好都市盟約締結式」が106人の方々のご臨席のもと執り行われました。

金田勇副町長の開式の言葉で式典が始まり、友好都市盟約締結に至った経緯の説明の後、多くの関係者が見守る中、大橋良一加須市長、福島正夫加須市議会議長、伊澤史朗町長、佐々木清一町議会議長が友好都市盟約書への調印を行いました。

次に、大橋市長から「双葉町民の方々が、笑顔で元気に双葉町へ戻るその日まで、加須市の一員として精一杯の支援をさせていたできます」とあいさつが述べられ、続いて伊澤町長が「大災害に見舞われた双葉町が復興に向けて進んでいけるのも加須市の皆様のご支援があったからです。加須市の皆さまのご厚意に対する感謝の念を後世へ引き継ぐとともに、今後さらに加須市との交流の輪を広げ、友好の絆を一層強くしていきたいと思っております」とあいさつしました。

埼玉県議会議員野本陽一様、柿沼トミ子様、福島県議会議員橋本徹様、他2名の来賓の方が祝辞を述べられ、盟約締結を祝いました。その後、市旗と町旗の交換が行われ、大橋市長と伊澤町長は固い握手を交わしました。続いて、角田守良加須市副市長と金田副町長、酒巻ふみ加須市議会副議長と

岩本久人町議会副議長が記念品を交換し合いました。

渡邊義昭加須市教育長のご発声により乾杯が行われ、加須市と双葉町の紹介動画を見ながら出席者同士で交流を深めました。

標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる太鼓の演奏では、会場内の空気が静まり、演奏終了後には保存会の皆さんへ惜しみない拍手が送られました。

最後に、岩本町議会副議長の方歳三唱、半谷淳双葉町教育長が閉会の言葉を述べ、加須市の今後ますますのご発展と双葉町の日も早い復興、そしてお互いの友好関係を深めていくことを約束し、友好都市盟約締結式は閉じられました。



絆



▲友好都市盟約書に署名する
大橋市長と伊澤町長

◀加須市と双葉町との間で
交わされた友好都市盟約書



加須市からはこいのぼりの置物が、双葉町からは、
双葉ダルマが記念品として贈られました。



市旗・町旗の交換をし、固く握手を交わす
大橋市長と伊澤町長



記念品の交換（右から、金田副町長、角田加須市
副市長、岩本副議長、酒巻加須市議会副議長）



乾杯



加須市・双葉町の紹介映像



万歳三唱



標葉せんだん太鼓保存会による太鼓の演奏

平成28年度双葉町表彰式



11月3日、町政の進展に多大な貢献をされた方々を称えるため、平成28年度双葉町表彰式がいわき市において挙行されました。

式では、伊澤史朗町長の式辞に続いて、功労表彰として4人の方々に表彰状と徽章が、3人の方々に善行表彰、10人の方々に永年勤続表彰、10団体に感謝状が贈られました。続いて、佐々木清一町議会議長、橋本徹県議会議員が祝辞を述べられ、その後、受章者を代表して江尻邦夫さんが謝辞を述べられました。

表彰された方は左ページのとおりです。

▲写真後列左から、大森梨江さん、佐藤実香さん、鴻崎正武さん
前列左から、江尻邦夫さん、伊澤町長、佐々木議長、吉田正志さん



— 永年の
功績を
たたえて —

▲後列左から、菜花昌子さん、
佐竹ひとみさん、猪井祥子さん
前列左から、高橋秀行さん、伊澤町長、
佐々木議長、紺野幸洋さん、松本孝さん

▶後列左から、G.R.E.S. 仲見世バルバロス様、
進研ゼミ様、夢ふたば人様、
標葉せんどん太鼓保存会様、
麻布大学55会様
前列左から、埼玉県様、加須市様、
伊澤町長、佐々木議長、学校法人星学園様、
川俣町様



功労表彰

◇永年にわたり教育委員会教育長として教育行政の進展に尽くされた功績顕著

江尻 邦夫様（長塚一）

いわき市在住
教育委員会教育長8年

◇永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

松浦 雅治様（鴻草）

茨城県在住
消防団員31年

◇永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

吉田 正志様（浜野）

いわき市在住
消防団員31年

◇永年にわたり双葉町消防団員として地域の安全・安心と福祉向上に尽くされた功績顕著

岡田 昭司様（浜野）

埼玉県在住
消防団員31年



功労表彰受章者へ贈られた徽章

善行表彰

◇2作目となる1000号の絵画「TOUGEN」ふるさと双葉町」を寄贈し、その善行により町の公益に著しく尽力

鴻崎 正武様

山形県在住

◇避難所への支援活動を積極的に行い、その善行により町の公益に著しく尽力

大森 梨江様（細谷）

いわき市在住

◇避難所への支援活動を積極的に行い、その善行により町の公益に著しく尽力

佐藤 実香様

いわき市在住

永年勤続表彰

◇多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

紺野 幸洋様（鴻草）

いわき市在住

◇多年にわたり双葉町消防団員として消防活動に寄与

松本 孝様（寺松）

栃木県在住

◇多年にわたり双葉町職員として地方自治行政の進展に寄与

高木 幸浩様（下条）

いわき事務所

感謝状

◇伝統文化の継承を通じて、町民の絆の維持発展に貢献

夢ふたば人様

◇伝統文化の継承を通じて、町民の絆の維持発展に貢献

標葉せんだん太鼓保存会様

◇避難所への支援活動、いわき市と双葉町の友好に貢献

G.R.E.S.

仲見世バルバロス様

東京都

◇災害発生時、役場機能への支援や避難所支援に尽力

埼玉県知事

上田 清司様 埼玉県

◇災害発生時、役場機能への支援や避難所支援に尽力

埼玉県加須市長

大橋 良一様 埼玉県

◇災害発生時、避難所支援などに尽力

川俣町長 古川 道郎様

川俣町

◇町立学校・幼稚園仮設校舎の用地提供や給食運営、園児の交流事業などに貢献

学校法人星学園

理事長 星 行夫様

いわき市

◇ふたばつ子教育支援基金に多額の金員を寄付

麻布大学55会

代表理事 吉岡 昭弘様

神奈川県

◇町立学校に必要な教育用品を寄付

進研ゼミ会員様

東京都

◇避難所に必要な電化製品や町立学校への教育用備品などを寄付

林泉寺坐禅会様

東京都



町民の皆さまへ

いわき事務所近くの街路樹もすっかり葉を落とし、今年最後の月、師走を迎えました。

10月26日、いわき事務所において、復興拠点の一角として整備を進める中野地区復興産業拠点について、町商工会の会員企業向けの誘致説明会を開催いたしました。拠点全体の面積は、51ヘクタールで、県が整備するアーカイブ拠点施設や一時帰宅者等の交流施設を設けるほか、一般企業の進出を想定して平成30年度頃にはインフラを整備し、企業が活動できる環境を整える予定です。商工会会員の皆さまには町の復興のためにも進出についてご検討をお願いしました。

さらに11月11日には東電関連事業者向けの説明会をJヴィレッジで開催いたしました。産業拠点の整備を含め、国、県が一体となり、責任をもって双葉町の復興に向かって取り組むよう働きかけてまいります。

10月31日から帰還困難区域内のJR双葉駅西地区の除染を開始しました。対象面積は約40ヘクタールとなります。本年3月に策定した双葉町内復興拠点基本構想に基づき、新市街地ゾーンとして住宅地や廃炉関係などの就業者向けの社員寮及び公的施設などを整備し「新たな生活の場」としていく計画です。

11月3日には、いわき市植田の「八幡台やまたまや」において、平成28年度表彰式と、埼玉県加須市との「友好都市盟約締結式」を挙行いたしました。

今年度の表彰式には、功労表彰が4人、善行表彰が3人、永年勤続表彰として10人の方を表彰しました。また、10団体に感謝状をお贈りいたしました。町政進展に多大な貢献をされました方々に対しまして改めて敬意と感謝を申し上げます。

表彰式に続いて埼玉県加須市と友好都市の盟約を締結いたしました。大橋良一加須市長はじめ、福島正夫加須市議会議長、市議会議員の方々、埼玉県議会議員の方々にもご臨席を賜り、大勢の皆さまが見守る中、盟約書に調印をいたしました。震災により長期の避難を余儀なくされている双葉町と、双葉町を支え励ましてこられた加須市と、立場は大きく違いますが、今後さらに交流を深め、新たな友好の歴史を築いていきたいと考えております。

11月5日には、来年3月で休校となる県立双葉高校の休校記念式典に立地町である双葉町を代表して、双葉高校の創立の歴史と町民の想いを述べてまいりました。約一世紀にわたる双葉高校の歴史の中にあつて、福島第一原子力発電所の事故により、休校となることは、断腸の思いであります。しかし、梅檀の葉の双葉高校の校章のもとに、21世紀を担う生徒たちが再び集うことは、双葉町民は勿論のこと同窓生の強い願いであります。双葉町のシンボルである双葉高校の再開の基本は双葉町の復興であり、双葉町の復興なくして双葉高校の再開はないと考え、最善を尽くすことを強く肝に銘じた次第です。

双葉町長 伊澤 史朗

双葉町長選挙・双葉町議会議員一般選挙は、平成29年1月19日告示、1月29日投票です。

任期満了に伴う双葉町長選挙及び双葉町議会議員一般選挙が平成29年1月19日告示、1月29日投票で行われます。

投票日や投票場所、投票方法については「選挙のお知らせ」と「不在者投票用紙請求書」を同封したものを12月下旬に有権者の皆さまへ郵送する予定です。

双葉町長選挙

○立候補予定者説明会

日 時：平成28年12月19日（月）
10：00～12：00

場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

○立候補届出書類事前審査

日 時：平成29年1月13日（金）
10：00～12：00

場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

双葉町議会議員一般選挙

○立候補予定者説明会

日 時：平成28年12月19日（月）
13：30～15：30

場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

○立候補届出書類事前審査

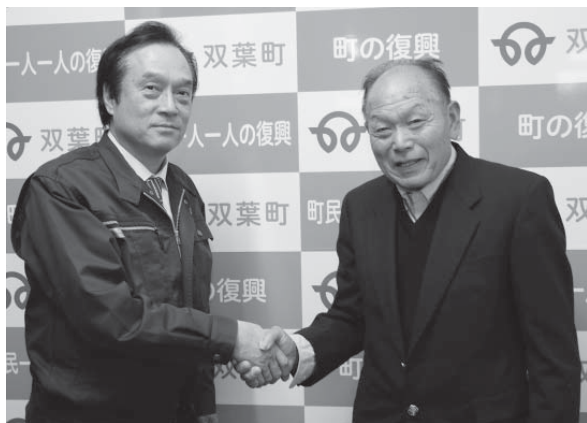
日 時：平成29年1月13日（金）
13：30～15：30

場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

○立候補届出受付

日 時：平成29年1月19日（木）8：30～17：00
場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

【問い合わせ先】 双葉町選挙管理委員会（総務課内） ☎ 0246-84-5201



渡部 一美さん(山田)が 秋の叙勲で瑞宝単光章を受章

渡部一美さんが双葉町統計調査員として多年にわたり町の統計調査に貢献した功績が顕著と認められ、11月9日に東京都品川プリンスホテルにおいて開催された平成28年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章されました。

11月11日、いわき事務所を訪れ、伊澤史朗町長に受章の報告をしました。

も厚く、また、震災後の平成27年国勢調査においては、自身も避難している立場でありながら、避難先自治体からの委嘱を受け、応急仮設住宅に居住する住民への調査も行ってきました。

伊澤町長は「長年にわたりご尽力いただき感謝申し上げます。町としても大変名誉に思います」とお祝いの言葉を贈られました。

渡部さんは「震災前は、みんなが顔見知りだったので協力的だったのが、震災後の活動は大変なことも多い。今後も地域のために続けていきたい」と話されました。



双葉町婦人会から町立学校へ手作り雑巾の贈呈



10月17日、双葉町婦人会の方々が町立学校を訪問し、渡邊由起子双葉北小学校長と藤川治洋双葉中学校教頭へ178枚の手作り雑巾が贈られました。

初めに、中村富美子会長が「震災後、裁縫をすることが無く久しぶりに針を持ったが、子どもたちのことを思いながら作ったので、ぜひ学校で使ってください」と話され、渡邊校長が「子どもたちと大切にに使わせていただき、学校をきれいにしていきます」と感謝の言葉を述べられました。

手作りの雑巾は数枚ずつきれいなリボンで結ばれており、先生方は笑顔で受け取られました。



応急仮設住宅の新規申し込み停止について

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故により、自らの住宅を確保できない方に対し、町は建設型応急仮設住宅への入居を随時受付しておりましたが、平成28年11月15日で下記の応急仮設住宅の新規申し込みを停止しました。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 福島市さくら応急仮設住宅 | 2 郡山市富田町若宮前応急仮設住宅 |
| 3 郡山市日和田町高倉応急仮設住宅 | 4 猪苗代町上川原応急仮設住宅 |
| 5 会津若松市第二中学校西応急仮設住宅 | 6 白河市郭内第二応急仮設住宅 |

双葉町ダルマ市PRキャラクター 双葉ダルマさん紹介

10月に行われたふたばワールド2016 in かつらおに初登場した双葉町ダルマ市PRキャラクター「双葉ダルマさん」。この秋に誕生し、イベントなどに登場したのはふたばワールドの1度だけであり、実際に見たことがないという方も多いかと思いますが。広報ふたば11月号の中で少し紹介しましたが、多くの方に知ってもらうため、双葉ダルマさんを詳しく紹介したいと思います。

今後、ダルマ市をはじめ、たくさんのイベントなどに登場する予定ですので楽しみに。



◆名前の由来は？

双葉町ダルマ市で販売されている「双葉ダルマ」に由来しています。

◆生年月日は？

生年月日・年齢は不詳

◆ダルマさんの性格は？

無口で不器用ですが、温厚で裏表が無い

◆趣味は？

座禅。何かを祈願することが趣味。今は町の復興を祈願しています。

◆得意な動きは？

動きは鈍いですが、ごくまれに・・・

◆チャームポイントは？

表と裏に同じ顔。一体で2つの祈りに答えます。

外見どおり裏表の無い性格です！ いつもどこかで町の復興と町民の方々の幸せを祈っています！

第28回 ふくしま駅伝

- ・ 総合… 48 位
- ・ 町の一部… 27 位

11月20日、第28回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が開催され、しらかわカタルスポーツパーク（白河市総合運動公園）をスタートに、福島県庁までの95.1kmを16人の選手がタスキをつなぎました。

双葉町チームは、避難生活により選手の皆さんが集まって練習を重ねることが困難な中での出場となりましたが、今年も夏に北塩原村で合宿、10月には試走を行い、選手やスタッフ全員の心をひとつにして大会に臨みました。成績は、総合48位、町の一部27位と厳しい状況の中健闘しました。

大会前日には、ホームページやタブレット端末に寄せられた応援メッセージを動画にし、選手の皆さんに町民の方々からの力を送りました。たくさんの方々の応援を背に、選手の皆さんは力を出し切り、感動を与えてくれました。



教育長からのメッセージ

復興町民委員会について



議論を楽しむ

今年度、双葉町復興まちづくり計画（第二次）の策定に向けて「**双葉町復興町民委員会**」が開催されています。委員会は「人の部会」、「町の部会」の二つの部会に分かれ、それぞれ町民から選ばれた委員が様々な意見を述べ、町の復興に向けての議論を進めています。委員会は平成24年より開催されており、メンバーの変更がありながらも、一貫して町の将来像を見つめる真摯な議論が続けられています。委員会に参加して感じることは「町の復興に関するテーマについて**こんなにも楽しく意見を交換するのは今までに見られなかった**ことであり、新しいことへの挑戦で、大変意義がある」ということです。そして「**何をするにも議論は大切である**」ということを改めて感じます。

復興へのイメージを持つ

こうした議論を通じて様々なアイデアが出され、少しずつ復興への歩みが感じられますが、復興への道程は長く困難であることは皆承知しており、そのため会議で出されたアイデアの実現を急ぐように、との声が聴かれるのは当然だと思われます。更には、いつ町は帰還するのか、若者や子どもたちをどのように帰還させるのかといった切実且つ重要な課題への疑問も提示され始めています。委員会の果たす役割は、様々な復興プランを町に提示する以外に、委員はもちろん町のスタッフ、町民に、**町の復興へのイメージを持つ機会を提供している**ことだと思います。より良き町の未来をイメージすることは、単なる絵空事に終わるのではないかという懸念が不必要な程に大切なことです。他のどの事業においても、成功へのイメージを持つことは同様に大切なはずです。

多様性、可能性の追求

双葉郡内の教育復興に向けても、郡内の子どもたちによる「**子ども未来会議**」がこれまで10回程度開催され、震災後の学校の在り方、自分たちの町の復興について様々な意見を交換してきました。時折、教職員や大人たちも交えて共に議論を楽しんできました。昨年4月に広野町に開校した「ふたば未来学園高等学校」や、一昨年より郡内各小中学校で取り組まれている「ふるさと創造学」には、**未来会議で出されたアイデアや意見の一部が反映されている**のです。時には奇想天外なアイデアも出されますが、多様性、可能性の表れとして考えるべきではないかと思います。双葉町民の皆さんもタブレット上で町の復興への魅力的なアイデアを互いに披露しあってみてはいかがでしょうか。また、インターネットで世界中から双葉町の復興プランを募ってみるのも面白いかも知れません。

アルパカが町を救う

自分の考える町づくりのアイデアとしては「**行ってみたい、住んでみたい町**」のイメージです。まず、2007年の新潟中越地震で大打撃を受けた旧山古志村に「アルパカが村を救うでしょう」と、アメリカコロラド州から贈られた3頭のアルパカを思い出します。今では60頭にも増え「**アルパカ牧場**」として全国から観光客が殺到しているそうです。正に救世主です。我が町でも、復興祈念公園に「アルパカ牧場」や「ダチョウ倶楽部」等を開設して観光事業を展開してはどうかと考えます。次は、魅力的な住宅です。双葉町に住み企業を興そうとする人々のために住宅を提供するのです。町の復興のシンボルとして、豪華なマンション「**ふたばヒルズ**」を建てるのはどうでしょうか。また、**浜街道を整備し**、双葉、大熊両町の住民のための専用高速道路として利用する、**駅コミセン**では定期的に芸人や音楽家を呼び演芸やコンサートを催す「**道の駅**」を国道6号沿いにオープンさせ県内外の人気物産の販売をするもの面白いかも知れません。更には、町内を荒らしているイノシシやハクビシンを捕獲し、伊達市で取り組んでいるように**革製品等への利用**も考えたいものです。

これまでの「双葉町復興町民委員会」での活発な議論は、**町の復興へ繋がる重要なステップ**だと考えています。メンバーを変え、内容を変え議論を継続することにより、何より委員の皆さんの**情報共有・発信力、想像力が高まり**、同時に町スタッフ、町民の復興への関心・イメージも膨らみ、そうすれば、町民一人ひとりが復興委員として大きな役割を果たすことにもなるでしょう。

双葉町教育長 半谷 淳

第28回双葉町総合美術展

第3回双葉町町民作品展

10月25日、26日の両日、郡山市ビックアイ6階展示室において、双葉町芸術文化団体連絡協議会主催による第28回双葉町総合美術展と第3回双葉町民作品展が開催されました。

会員の皆さんが県内外に避難している中、書の部、写真の部、短歌の部、俳句の部、絵画の部など8つの部門から約100点の素晴らしい作品が、また、町民作品展には自治会や婦人学級の皆さんの様々な手芸の力作約100点が出品され、会員の皆さんにより会場内にきれいに展示されました。

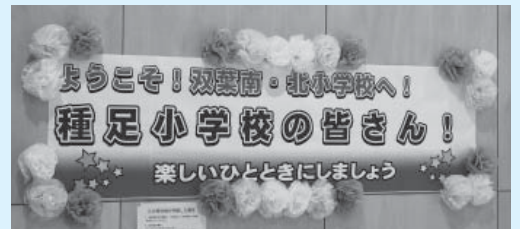
開会式では横山久勝会長が「双葉郡でこのような芸術文化団体の活動実績があるのは双葉町だけです。これはおおいに胸を張れることだと思います。芸術文化とはと

ても奥深いものです。厳しい環境ではありますが、これからも芸術文化の活動を通して、心も身体も健康でいられますようお祈りいたします」とあいさつされました。

朗町長が祝辞を述べました。

10月29日、30日には、いわき市立勿来体育館の勿来地区総合文化展、双葉町スペースにおいても同じく開催され、双葉町小中学校児童・生徒の作品とともに約300点の作品が展示されました。

2会場とも多くの来場者が次々に訪れ、会場内は活気に溢れていました。来場した町民の方々は「知っている方の作品が見れて良かった」「友達に会えてうれしい」などと話されており、町民の交流の場ともなっていました。



ふたばっ子 輪になり描く メッセージ 双葉町立幼稚園 小・中学校

梅檀祭



11月5日、町立学校体育館において「ふたばっ子 輪になり描く メッセージ」をスローガンに幼稚園・小学校・中学校合同文化祭が開催されました。オープニングは、昨年に行っていた小中学生が標葉せんだん太鼓保存会の指導を受けて練習してきた「天響」を演奏し、人数が増えて迫力を増した力強い和太鼓の音色を会場内に響かせました。中学生は「私の描く未来」と題して震災後の生活で実際に出会った人々に焦点を当てた創作劇や合唱、また自分たちで伴奏を考えた箏を心を込めて演奏しました。



幼稚園児は、手作りの衣装を身につけたかわいらしい姿で元気に「大きなかぶ」の劇を発表しました。小学生が「おとの様参りましよう」と題し、双葉ばら園、神楽、双葉高校野球部、じゃんがら念仏踊り、清戸迫装飾横穴墓など、双葉町の名所や伝統芸能を題材とした創作劇を発表すると、大きな拍手が贈られました。会場の後方には、これまで授業の中で学んだ美術作品などが展示され、保護者や来場した方々は子どもたちの成長を確かめるように見入っていました。園児・児童・生徒全員が主役となった梅檀祭。子どもたちからのメッセージが、演技や演奏から感じられる素晴らしい発表となりました。



◆◆◆ 加須市種足小学校との交流 ◆◆◆

10月26日、町立小学校に加須市立種足小学校の6年生が修学旅行の訪問先として来校し、5・6年生の児童と外国語活動で交流をしました。

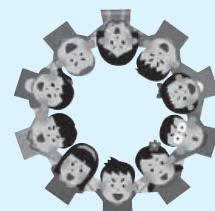
A L T (英語指導助手) のフィリップ先生が、27年度まで種足小学校に隔月で英語を教えに行っていたこともあってこのような交流が実現し、今年2月にはインターネットのビデオ通話を通じて交流学习も行われました。

体育館での交流では、英語でじゃんけんをして負けたら勝った人の後ろにつながるゲームやフィリップ先生が言った動物の名前と同じ文字数の人数でグループを作るゲーム、英語で自己紹介をする名刺交換などが

行われ、児童の皆さんはとても楽しそうにフィリップ先生を交えて交流を深めていました。

さらに、種足小学校の児童が栽培したアンネのバラの挿し木が贈呈され、町立小学校の児童からもバラの鉢植えが贈呈されました。

短い時間の中での交流ではありましたが、とても楽しい交流となり、最後には全員で集合写真を撮り、児童たちは種足小学校の児童が乗ったバスが見えなくなるまで手を振って見送っていました。



ふるさとの祭り2016



～ 地域をつなぐ伝統芸能 ～

11月5日、6日の両日、ふるさとの祭り2016が白河市において開催されました。かけがえのないふくしまの民俗芸能を次世代へ継承していこうと、ふるさとの祭り実行委員会の主催で行われ、県内外から20団体が出演しました。

双葉町からは、山田のじゃんがら念仏踊りと前沢女宝財踊り、このふるさとの祭りが震災後初めての披露となる渋川の神楽が参加し、秋晴れの下、勇壮な神楽や華やかな踊りを披露しました。両日も大勢の来場者で賑わい、会場からは惜しみない拍手が送られました。



山田のじゃんがら念仏踊り ～山田芸能保存会～

1人の踊り手がバチを回しながら太鼓を叩いて踊り、それに合わせて小さな鐘を鳴らして掛け声をかける山田芸能保存会（菊地安会長）の山田のじゃんがら念仏踊りは、江戸時代の終わりにいわき地方から山田地区に伝えられたと言われています。いわきのじゃんがらと比べると演奏のスピードが速く、謡がない点が異なり、初期のじゃんがらの形態を残していると言われています。

震災後、太鼓の周りを覆う布には「絆」の文字が加えられ、囃子手には女性や小学生が加わりました。



後列左から、志賀豪、菊地浩美、高野芳彦、菊地安、鈴木慶一
2列目左から、菊地ゆみ子、中里真江、天野洋子、天野正衛
前列左から、渡部勇、渡部一、菊地翔輝
(敬称略)



前沢女宝財踊り ～前沢婦人会芸能保存会～

前沢婦人会芸能保存会（半谷八重子会長）による宝財踊りは、室町時代から続いている芸能で、県内で唯一の女性だけで踊る踊りです。

今から670年前、南北朝時代の霊山落城の際に12人の主従が旅芸人に変装して踊りながら落ち延びた話が起源とされ、旅芸人の姿に扮した会員の皆さんは、軽快なお囃子の笛に合わせて、堂々とした踊りを披露しました。



後列左から、山根光保子、相樂比呂紀、岡田利江子、
山本眞理子、谷津田敬子、岩本稔恵、加村茂子、
田中晴美
前列左から、渡邊貴美子、加賀由美子、半谷八重子
(敬称略)

渋川の神楽 ～渋川芸能保存会～

渋川の神楽がいつごろから始まったかは不明です。一時途絶えましたが、昭和50年頃に復活。悪魔祓いと豊年満作を願い、毎年元旦と神社の祭礼(7月23日)の夜籠りの際に愛宕神社に奉納しています。

頭が雌の神楽で全体的におとなしく、乱舞の際に2人加わり、合計4人で踊ります。舞の時間は25分と他の神楽の演舞に比べて長いのが特徴です。

震災後初めての披露となり、5年ぶりの復活となりました。ステージ終了後、無病息災を祈願して獅子に頭を噛んでもらう体験コーナーもありました。



後列左から、大友清、廣田正美、吉田建一、
廣田智哉
2列目左から、西尾雅登、西尾富雄、川井正記、
朝田幸伸、横田清志
前列左から、吉田清己、廣田正秀、井上昭浩、
上田善幸(敬称略)

伝統芸能の継承を・・・

伝統芸能や祭りは、災害や社会経済の変動などにより消滅していく恐れがあります。

一方、地域に古くから伝わる芸能は、人々の心に直接働きかけ、人と人との絆を強め、生きる力を呼び起こすと言われています。

これから双葉町が復興に向けて前進していくためにも郷土の芸能を消して絶やさず、後世へ継承していきたいものです。



—使命を胸に—

双葉町消防団秋季検閲式



11月12日、町立学校体育館において、震災後4回目となる双葉町消防団秋季検閲式が開催され、避難先から石井義幸団長をはじめとする33人の消防団員が集合し、整然とした態度で検閲式に挑みました。

初めに、根本英樹訓練分団長の合図のもと、伊澤史朗町長や来賓の方々による閲団、通常点検が行われました。

続いて、伊澤町長が「全国各地で様々な災害が発生しており、災害対応の責務を担う消防団の役割が増してきております。避難している状況下では残念ながら十分な活動が難しいものがありますが、今後とも災害対応の第一線となる消防団の役割は重要であり組織の存続は必要でありますので、今後ともご尽力いただきたい」と式辞を述べ、来賓の御代典文相双葉地方振興局長、橋本徹県議会議員、佐々木清一町議会議員、佐々木敏双葉警察署浪江分庁舎所長、加勢信二浪江消防署長が祝辞を述べられました。

また、14人の団員に対する定例表彰が行われ、石井団長から表彰状が贈られました。

石井団長の訓示では「団員が避難している中であるため十分な活動ができず歯がゆい思いであるが、引き続き団員としての自覚を持って自己研さんに励み、災害時にはいつでも対処できるよう備えてほしい」述べられ、士気を高めました。



9月13日、「公共の宿 マウントあかね」において、ピザ作り、バーベキューが行われました。自分で作るピザはとっても美味しく、種類が豊富だったバーベキューにも皆さん大満足でした。

すみれ婦人学級（いわき南） …ピザ作り・バーベキュー



しらゆり婦人学級（南相馬市） …絵手紙教室

9月16日、原町生涯学習センターにおいて絵手紙教室を行いました。

初めは「難しい!」と言っていた参加者も、徐々にコツをつかみ味のある作品に仕上がっていました。





婦人学級の活動報告



婦人学級は、各避難先において学習を通して町民同士のつながりや絆の維持、発展を目的として活動しています。

今月号では、ひめ萩婦人学級（仙台市）、たんぽぽ学級（郡山市）、つくばふたば婦人学級（つくば市）、すみれ婦人学級（いわき南）、しらゆり婦人学級（南相馬市）の活動についてご紹介します。

ひめ萩婦人学級（仙台市） …山形県東沢バラ公園見学



6月28日、電車に乗って山形県にあるバラ公園へ行き、公園内を散策しました。

色とりどりのバラが咲いており、公園内にはバラの甘い香りが漂っていました。



たんぽぽ学級（郡山市） …陶芸教室

7月27日、郡山市にある「あさか野窯」において陶芸教室を行いました。

先生にご指導いただきながら思い思いの物を作っていき、初めての参加者もいて、普段なかなかできない体験をしました。

翌月に出来上がるのを楽しみに待ち、完成品に皆さん満足していました。

つくばふたば婦人学級 （つくば市）…着付け教室

7月30日、つくば連絡所において着物の着付け教室を行いました。

先生に基本から丁寧に教えていただき、参加した全員が自分で上手に着付けることができました。



下羽鳥地区

総会・交流会



10月22日、23日、郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」において、下羽鳥地区の総会・交流会が開催され、各地の避難先から27人の方々が参加されました。

総会は、阿部利一区長のあいさつで始まり、続いて村井佳人さんから平成27年度の会計報告があり承認されました。

続いて、東電復興推進室双葉町グループの方から原発の状況と現在取り組んでいる復興支援の内容等について説明があり、参加者からは要望等が出されました。

その後、金田勇副町長から双葉町の現状と復興への取り組み等について講話をしていただきましたが、普段、町の状況については情報が少ないこともあり、生活サポート補助金や被災者生活再建支援金、その他についても色々な質問が出て時間が足りないくらいでした。

総会終了後、交流会は、前田洋海さんの乾杯の音頭で始まり、それぞれに近況報告や情報交換等、一年ぶりの再会に話は弾み、あつという間の楽しい一次会でした。今回は、88歳と89歳のご婦人にも参加をしていただいたことで参加者の皆さんの励みになったようです。

次回もまた元気で会おうと木幡英征さんの締めめのあいさつで交流会を閉じました。

二次会にもほとんどの方が参加するなど、皆さん離れがたく、懐かしく、夜が更けるのも忘れるほどでした。金田副町長には、夜遅くまで話を聞いていただき、本当に感謝いたします。

翌日、ロビーにて別れを惜しみながらも、次回の再会を約束し、それぞれの帰路に着きました。

震災から6年！

皆さん前向きな様子で大きな元気をもらいました。

千葉県及び近隣地域にお住まいの
双葉町民の皆さまへ

平成29年1月に「千葉ひまわり会」の新年会を計画しています。皆さまの参加をお待ちしています。

◇日 時：1月13日(金) 12:00～(予定)

◇会 場：千葉県松戸市周辺(予定)

◇内 容：食事会、カラオケ

※詳細については「広報ふたば」1月号に掲載予定です。

※双葉町以外から避難している方もご参加いただけます。
浪江町民の皆さんを中心とした「ともにいきる会」との合同開催を予定しています。



※ご不明な点などがあれば、お気軽にお電話ください。

【申し込み・問い合わせ先】 千葉ひまわり会

・千代田 信一(羽鳥) ☎090-9422-0593
(19時以降にご連絡ください)

・松浦 トミ子(鴻草) ☎090-3334-3984

・双葉町復興支援員(ふたさば) 秋元
☎070-5550-7645

渋川行政区

総会・交流会



10月29日、30日、郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」において、渋川行政区の総会、交流会が開催され、29人の方々が県内外の避難先から参加しました。ホテルのフロントで1年振りの再会をする「車で何百キロも走ってきて良かった」「また会えて良かった」と言葉を交わし、手を握って離さない姿に本当に絆が強いことを確信しました。

総会に先立ち、東日本大震災から5年8カ月を迎え、震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

次に、東電復興推進室双葉町グループの小川恭史さん、岸信一さんから双葉町での復興推進活動の説明を受け、住宅等への進入路・個人墓地の除草、家庭ごみのごみステーションまでの運搬などについて詳しく話を聞きました。参加した皆さんからは、質問や意見等もあり、丁寧な説明をいただきました。

総会に入り、はじめに朝川洋一区長から双葉町の復旧・復興の話や「渋川には思い出がたくさんあり、その渋川を簡単に捨てるわけにはいかない、避難指示が解除になる日を夢見て皆さんで頑張っていきましょう」とあいさつがありました。次に、会計報告があり、今回は渋川墓地の賠償について説明がありました。他に、高砂会の残金、田の人足金など、今後活動の見通しがつかない会計について大字の通帳に入金することが決まりました。

議事について全員でどうすべきかを審議しましたが、地元を想い続ける皆さんの熱意が年数が経つごとに高まってきていると感じました。

交流会では、双葉での思い出話、お互いの近況報告などで盛り上がり、楽しく過ごしました。また「渋川の神楽」の継承のため活動を再開した若い青年たちの気持ちに区長としてとても感動しました。

現在は各避難先での生活ですが、次回の総会の開催時に元気な姿で再会することを念じています。

東京ふれあい双葉会からのお知らせ ～新年会を開催します～

東京ふれあい双葉会は、東京都及び近隣地域に避難している双葉町民のグループです。双葉町にあった懐かしのお店での新年会です。まだ会員になっていない方でもお気軽にご参加ください。

- ◇日 時：1月29日(日)
12時～15時(11時30分現地集合)
- ◇場 所：JOE'S MAN2号
(東京都世田谷区太子堂2-25-6池田ビル2階)
- ◇定 員：50人(先着順)
- ◇参加費：4,000円(予定)
- ◇申し込み：12月20日(火)
右記の連絡先へお申込みください。
- ◇その他：申し込みいただいた皆さまへは、後日詳細を別途お送りします。

【申し込み・問い合わせ先】 東京ふれあい双葉会

- 谷 尚之(三字) ☎090-7072-0959
 - 和泉 英二(三字) ☎090-8921-3907
 - 佐藤 孝一(山田) ☎080-5571-3694
- ※(カッコ)内は出身行政区

**ご連絡
お待ちしております!!**



臨時福祉給付金の申請はお済みですか？

臨時福祉給付金は、消費税の引き上げに伴う負担の緩和及び、賃上げの恩恵が及びにくい障害・遺族基礎年金受給者の支援を目的に支給するものです。

平成28年度住民税の課税状況等により、対象と思われる方へ9月中旬から申請書をお送りしています。期限が近づいておりますので、申請がお済みでない方はお早目に手続きをお願いいたします。

	臨時福祉給付金	障害・遺族基礎年金受給者向け臨時福祉給付金
支給対象者	平成28年1月1日時点で双葉町に住民登録があり、平成28年度分の住民税(均等割)が課税されていない方 *ただし、住民税において課税者の扶養親族になっている方や、生活保護の受給者である方などは除きます。 *「高齢者向け臨時福祉給付金」(3万円)を受給した方も対象となります。	平成28年度臨時福祉給付金の支給対象者で、平成28年5月分の障害基礎年金・遺族基礎年金等を受給している方 *ただし、「高齢者向け臨時福祉給付金」(3万円)を受給した方は対象となりません。
支給額	対象者1人につき3千円	対象者1人につき3万円
申請期限	平成28年12月22日(木) *郵送の場合当日消印有効	
支給について	第1回目の支給は10月中旬に実施いたしました。以降、申請書受付順に支給しています。申請書受理後、支給までに2か月程度を要しますのでご了承ください。	

<申請・問い合わせ先>

いわき事務所 健康福祉課福祉介護係 ☎0246-84-5205
〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4

◆屋内での転倒予防のポイント

- 転倒の頻度が多いのが居間や寝室などです。次のようなことに注意しましょう。
- ・敷居の段差をなくすよう改修する。
- ・じゅうたん等はすべらないように固定する。
- ・コード類、新聞、雑誌など、常に整理整頓する。
- ・転びそうなとき、思わずつかんでしまう机や家具はなるべく固定する。
- ・足元が暗いところには照明をつける。



◆転倒は身近なところで

高齢者の「転倒」は屋内や近所など、そのほとんどが日常生活の中で起こっています。高齢者は筋力やバランス機能も徐々に衰えて、ちょっとしたことで転倒しやすくなります。

寒い季節は体を動かすことが少なくなります。家の中もこたつやカーペットなどで、いつもに比べ、転倒しやすい環境になります。転倒すると骨折を引き起こし、寝たきりにつながりやすくなりますので注意しましょう。

健康コラム 転ばぬ先の杖 ～転倒予防のポイント～

◆屋外での転倒予防のポイント

- ・庭や玄関回りを整理整頓する。
- ・靴は、軽くて足の甲を覆うものの靴底が厚く安定したもの。
- ・両手を使えるリュックなどを背負い、利き手は必ず開けておく。
- ・歩行は手すりのそばを歩く。
- ・時間に余裕を持って出かける。
- ・天候が悪い時には無理をして外出しない。



◆体力増進のために体を動かしましょう。

下肢の筋力を維持することが大切です。毎日、心がけて普段の家事などをてきぱきと動くだけで、体力増進になります。また、体操などは無理なく続けることが大切です。家の中でできる運動を一つご紹介します。

☆筋力アップ

太もものトレーニング

椅子に腰かけ、片足を上げ5秒間キープしましょう。左右10回ずつ朝夕取り組みましょう。

△問い合わせ先▽

健康福祉課 健康づくり係
☎0246-84-5205

考えてみましょう！『アルコールと健康』

お酒は私たちの生活に豊かさと潤いを与えるものである一方、不適切な飲酒（多量の飲酒、未成年者の飲酒、妊婦の飲酒等）は、アルコール健康障害の原因となります。アルコール健康障害は本人の健康問題であるだけでなく、飲酒運転や暴力、自殺などのさまざまな問題にも密接に関連します。

平成25年12月に「アルコール健康障害対策基本法」が成立し、平成26年6月に施行されましたが、この法律により毎年11月10日から16日は「アルコール関連問題啓発週間」と定められました。

年末年始は飲酒の機会も増えますので、この機会にお酒の上手な付き合い方について考えてみませんか？

飲酒量と健康の関係

～健康とドリンク～

栄養に「カロリー」という単位がありますが、飲酒量の単位を「ドリンク」と言います。
「純アルコール10gを含むアルコール飲料」＝「1ドリンク」です。

例：ビール500mlの中に含まれる純アルコール量は？

$$\begin{array}{|c|c|c|c|c|c|} \hline \text{ビールの} & \times & \text{アルコール} & \times & \text{アルコール} & = \\ \text{量} & & \text{度数} & & \text{比重} & \text{純アルコール} \\ \hline 500\text{ml} & \times & 0.05 & \times & 0.8 & = 20\text{g} \\ \hline \end{array}$$

ビール500mlは、純アルコール20g
⇒純アルコール10gは『1ドリンク』
なので、『2ドリンク』

●節度ある適切な飲酒

- ・酒の強い健康な男性は、1日2ドリンク以下
 - ・お酒に弱い人、女性や65歳以上の人、病気のある人は、1日1ドリンク以下
- 上記の飲み方は、健康に悪影響を与えない飲み方です。

※これ以上飲むと、寿命に影響が出始めることが研究で判明しています。

◎保健師からの一言

「休肝日を週に2日は作るようにしましょう。」

●生活習慣病のリスクを高める飲酒

- ・男性は1日4ドリンク、女性は1日2ドリンク
- この量を飲み続けると、将来の生活習慣病の危険が高まる飲み方になっています。既に病気がある人は、改善しないどころか、悪化させてしまいます。

◎保健師からの一言

「1日1ドリンク減らす、または、休肝日を1日増やす等の工夫をしてみましょう。」

●多量飲酒

- ・1日6ドリンク以上飲む人。

現在は自覚症状がまだなくても、数年で肝硬変やアルコール依存症などの怖い病気にかかる可能性が高い飲み方になっています。

◎保健師からの一言

「1日1ドリンク減らす、または、休肝日を1日増やす等の工夫をしてみましょう。」「2週間程度のプチ断酒もお勧めです。」

ドリンク換算表

日本酒 (15%)	ウイスキー (40%)	ビール (5%)	缶 チューハイ (7%)	焼酎・ 泡盛 (25%)	ワイン (12%)
1合	ダブル 1杯	中瓶 1本 (500ml)	1缶 (350ml)	1合	グラス 1杯
					
2 ドリンク	2 ドリンク	2 ドリンク	2 ドリンク	3.5 ドリンク	1 ドリンク

◆ お酒に関することは健康福祉課や県の各保健福祉事務所にご相談下さい。 ◆

【問い合わせ先】 健康福祉課 健康づくり係 ☎ 0246-84-5205

いわき大交流フェスタ

10月22日、震災と原発事故による避難者といわき市民の絆を強めることを目的とした「いわき大交流フェスタ」が、いわき市の平体育館と市民運動場で開催されました。展示や販売のブース、ステージイベントなど様々な催しが繰り広げられ、来場した双葉郡からの避難者といわき市民には笑顔の輪が広がりました。双葉町からは、相馬流れ山踊り保存会、いわき・まごころ双葉会、ふたば茶亭がそれぞれ参加し、人気を集めました。



相馬流れ山踊り保存会の皆さんによる 相馬流れ山踊りの披露

初めに、中村富美子会長から「震災後、ここまでくるのは大変でしたが、元気になった姿を皆さんに見ていただきたいです」とあいさつがありました。揃いの陣羽織に身を包んだ皆さんがステージに登場すると、会場は静まり返り、その中で堂々と踊る皆さんは、来場者の注目を集め、たくさんの拍手に包まれていました。



ふたば茶亭によるお菓子の販売

こだわりの洋菓子や自家製の餡と皮で作るドラ焼きなど、人気の商品は早々と売り切れとなっていました。



いわき・まごころ双葉会による餅つき体験・お餅の振る舞い

臼と杵でついたつきたてのお餅は、大行列ができるほどの人気を集め、もち米を蒸かすのが間に合わないほどでした。1斗6升のお餅はあっという間に無くなってしまいました。



◆◆◆ いわき・まごころ双葉会 ◆◆◆ 「いわき市再発見バスツアー」 Part2



10月27日、10月の例会として昨年に引き続き「いわき市再発見バスツアー Part2」を実施しました。

今回は、歴史探訪として勿来の関、薄磯地区との交流、日産自動車の訪問をメインに実施し、51人が参加しました。

初めに勿来の関を訪れ、館長さんから勿来の歴史について詳しく説明をいただきました。

薄磯地区との交流では、薄磯団地自治会の大河内会長から津波被害の状況や現在進められている宅地造成の様子などの説明をいただき、塩屋崎灯台を指呼の間に望み、開放的で立地環境の良さを改めて実感し、今後の交流に期待が高まりました。

最後に訪問した日産自動車いわき工場では、整然とした生産設備ラインが並び、各種ロボットが器用に稼働し、世界トップレベルの技術水準の高さに感動しました。

今回のバスツアーでは、いわき市の歴史、地域、企業等に更なる理解を深めることができ、文字どおり新たないわき市再発見バスツアーとなりました。



いわき・まごころ双葉会 副会長 木幡 智清

行政区長会

視察研修の報告

10月7日、行政区長会で福島第一原子力発電所及び楡葉町遠隔技術センターを視察しました。

第一原発では、構内視察に先立ち担当者より、第一原発全体の現況と汚染水対策や廃炉へ向けた工事の取り組み状況及び進捗状況、さらに今後の工程などの詳細説明がありました。

構内は、昨年の視察時より作業環境がかなり改善され、整然とした印象を持ちました。ただ、林立する汚染水保管のタンク群の数や凍土壁の本格運用はかなり先になることなどを聞き、この先も種々難しさを抱え続けなければならない課題が山積されるものと思いました。

廃炉に伴う各廃棄物の構内での処理と安定的な保管に関しては大いに関心を持って、全体的に廃炉に向けた極めて真摯な取り組みが伺えました。この先、大きなトラブルに繋がりにかねない小さな事象も見逃さないこと、さらに、的確なタイミングでの情報公開が最優先されることが望まれた研修でした。

続いて、楡葉町遠隔技術開発センターの研究管理棟、試験棟を視察しました。原発廃炉に向けた高度な技術開発や取り組みの説明を聞き、極めて難しい研究であることを理解しました。また、各種ロボット開発やバーチャルリアリティ（VR）システム等最先端の研究施設であることを理解しました。

これらの研究成果が近いうちに廃炉作業へ大きく貢献することが期待できる有意義な視察でした。

環境省 福島環境再生事務所からのお知らせ ～中間貯蔵施設について～

◇輸送について（11月20日現在）

➤双葉町内中間貯蔵施設保管場の試験輸送の状況は下記のとおりです。

○実施中〔平成28年度の輸送〕

浪江町（6月20日開始）・伊達市（7月8日開始）・福島市（9月5日開始）・川俣町（10月3日開始）
・葛尾村（10月5日開始）・大玉村（10月24日開始）・飯舘村（11月2日開始）・相馬市（11月4日開始）
・本宮市（11月14日開始）・二本松市（11月17日開始）

〔学校等の輸送〕

二本松市（9月5日開始）・桑折町（9月6日開始）・国見町（9月27日開始）・相馬市（10月1日開始）
・本宮市（10月6日開始）・新地町（10月12日開始）

◇施設について

➤11月15日より、中間貯蔵施設の受け入れ、分別施設及び土壌貯蔵施設の工事を開始しました。

◇保管場及び陳場下交差点の放射線監視

➤空間線量率の測定により、除染土壌等の搬入による周辺への影響は見られないことが確認されています。今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。

➤中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のJESCO（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のHPで公表しております。

（URL）<http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html>

【問い合わせ先】福島環境再生事務所 中間貯蔵施設等整備事務所
調査設計課 ☎ 024-563-1293



～ 帰還困難区域での面的除染を開始しました～

環境省では、JR双葉駅西地区約40haの除染作業を10月31日に着手しました。

除染は、建物（解体を希望された建物は除く）や庭、農地、森林（宅地・農地の生活圏から20m以内）、道路等を対象に行います。

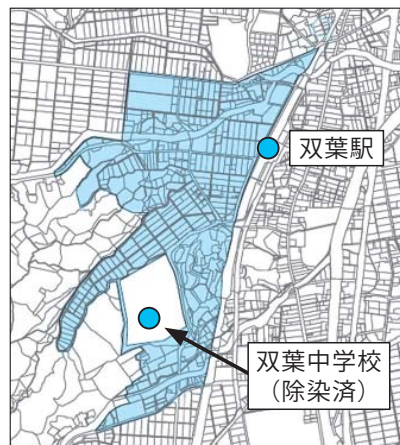
併せて除染により生じる土壌等を保管する仮置場を石熊地区に造成しています。

これらの工事は、環境省から工事を受注した事業者である「前田・鴻池・田中特定建設工事共同企業体」が実施します。

除染工事期間中は色々ご迷惑をおかけいたしますが、一時立入りなどで町内に入る町民の皆さまの安全には配慮してまいります。当該地区の皆さまをはじめ、町民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

【問い合わせ先】

環境省福島環境再生事務所 県中・県南支所 ☎ 024-983-0709



教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

12月 生活学級の日程

※婦人学級の予定は、同封のチラシをご覧ください。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
12月の生活学級は、以下の3カ所で開催します。内容は次のとおりです。  ○安心して年末年始を過ごすためのポイント ○お楽しみ DVD の上映 (町立学校の梅檀祭で小学生が発表した創作劇) 						
4	5 そうま・みなみそうま 生活学級 サンライフ南相馬 10:30～	6	7	8	9 あいづ生活学級 会津若松市第二中学 西仮設住宅集会所 11:00～	10
11	12	13	14	15	16 つくば生活学級 つくば連絡所 10:30～	17
18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
25	◇平成28年度生活学級へのご参加ありがとうございました◇ 今年度の生活学級は12月をもって終了します。参加者の皆さん、ありがとうございました。今年度は「ふたばのいいところ再発見」「震災とふたば」のテーマで各地区2回ずつ実施し、参加者の皆さんから貴重なお話をさせていただきました。この内容は、双葉町が後世に残す資料として、教育総務課において取りまとめてまいります。 また、現地研修では、福島県文化財センター白河館、福島県立博物館、筑波大学をご覧いただき、双葉町の歴史民俗資料館の資料や震災関係資料の保存状況を研修していただきました。					

【問い合わせ先】 双葉町教育委員会 教育総務課 生涯学習係 ☎ 0246-84-5210

第2回双葉町民トレッキング



11月5日、昨年に引き続き双葉ふれあいクラブの企画により、第2回双葉町民トレッキングが開催され、県内外から38人が参加しました。

当日は気持ちの良い秋晴れの中、道の駅羽鳥湖高原をスタート。羽鳥湖周辺とレジーナの森、約4キロを散策しました。

参加した皆さんは、黄色やオレンジに紅葉した絶景を見て秋を感じながら、足を止めて写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたりしながら楽しい時間を過ごしました。

秋も深まり寒さを感じる季節の中でしたが、なかなか会えない方々との再会もあり、心も身体も温まる1日となりました。また、次の開催を楽しみにする声も多く聞かれました。

双葉町社会福祉協議会

～ 12月健康運動教室、社協サロンのお知らせ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。お気軽にご参加ください。

会 場	問合せ・申込先	開催月日	時 間
健康運動教室 （内容：健康講話、相談、運動機能の維持・向上等）			
福島市北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小原田 8-1 ☎ 080-6033-1196（小林）	12月 1日（木） 12月15日（木） 12月22日（木）	13:30～15:00
白河市郭内第二応急仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 ☎ 080-6290-5930（廣田）	12月 6日（火） 12月13日（火） 12月20日（火） 12月27日（火）	10:00～11:30
南東北総合卸センター 2階第6会議室	郡山市喜久田町卸 1丁目 1-1 ☎ 024-973-5291（開発）	毎週火曜、水曜日	13:30～15:00

社協サロン（内容：健康講話、相談、趣味、生きがいきづくり交流等）

※社協サロンでは昼食を準備致しますので事前に申込みをお願いします。

郡山市喜久田公民館	郡山市喜久田町堀之内字上ノ台 19 ☎ 024-973-5291（開発）	12月19日（月）	10:00～14:00
-----------	---	-----------	-------------

サポートセンターひだまり出張サロン

（内容：健康体操、健康講話、交流会等）

いわき市小名浜公民館 3階視聴覚室	いわき市小名浜愛宕上 7-2 ☎ 080-6290-5927（渡邊）	12月20日（火）	10:30～14:30
-------------------	---------------------------------------	-----------	-------------

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 ☎ 024-973-5291 【担当：開発】

『**そうそうこども科学祭2016**』の
ご案内

「遊び」ながら「ものづくり」や「科学」を楽しく学ぼう！

第5回となる「そうそうこども科学祭2016」が開催されます。当日は、地元企業や高校生が工夫を凝らした体験型ブースを準備する予定です。また、ドローン操縦体験イベントもあります。

申し込み不要。参加無料。当日は「なみえ焼そば」など、屋台でのふるまいもあります。（数量限定）

- ◇日 時：平成28年12月10日（土）
午前10時～午後3時
- ◇会 場：テクノアカデミー浜（南相馬市）
- ◇対 象：小学生及び中学生
- ◇福島県相双地方振興局企画商工部
☎ 0244-26-1142

ハローワークからのお知らせ
平成29年1月から
65歳以上の方も雇用保険の
適用対象となります。

これまで65歳に達した日以降に雇用された方は、雇用保険の適用外でしたが、1月以降は、1週間の所定労働時間が20時間以上で、31日以上雇用の見込みがあれば、原則として雇用保険の対象となります。対象となる労働者を雇用する事業主の方は、加入手続きが必要となります。

詳しくは、最寄りのハローワーク（公共職業安定所）にお問い合わせください。

中間貯蔵施設に係る 弁護士相談窓口のご案内(12月)

◇ 開催場所及び開催日時

実施場所	開催日	開催時間
双葉町 いわき事務所	12月 8日(木)	午後2時～ 午後5時
双葉町 郡山支所	12月15日(木)	午後2時～ 午後5時

◇ 申し込み方法

事前申し込みになりますので、下記の連絡先までご連絡をお願いします。

【申し込み・問い合わせ先】

双葉町 建設課 ☎0246-84-5209

受付時間

午前8時30分～午後5時15分(平日)

消防署からのお知らせ

今年も残りわずかとなりました。
火災に十分気を付けて、1年を締めくくりましょう。

火気及び電気製品の注意点ををご紹介します。

ストーブ



- 1 周りにスプレー缶や可燃物を置かない
- 2 外出の際や就寝時は必ず火を消す
- 3 給油は火を消してから実施する
- 4 電気ストーブも可燃物が触れると出火する
(現代は、石油ストーブより電気ストーブの方が出火率が高い)



カセットコンロ



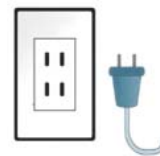
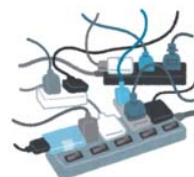
- 1 コンロをつなげて使用しない
- 2 その場を離れる時は火を消す
- 3 燃焼等の異常を感じたら使用を中止する
- 4 大きすぎる鍋は使用しない
(炎が横に広がり、ボンベなどが熱を受ける)



電気製品



- 1 たこ足配線はしない
- 2 コードを束ねて使用しない
- 3 コンセント部分はホコリを取り除く
(冷蔵庫やテレビの裏はホコリがたまりやすい)



火事と救急は
119番

< 消防署連絡先 >

- ・浪江消防署 ☎0240-34-7360
- ・富岡消防署 ☎0240-25-2119





双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りの一部をご紹介します

真の復興を目指して

年末となりました。避難生活も5年以上を経過し「故郷は遠くになりけり」を実感しております。

さて、県は双葉町中野地区に「アーカイブ拠点施設」の建設を決定しておりますが、これは震災による「原発災害」の実態を後世に伝え「再びこのような事故を起こさない」との強い意志を表明したものであると理解しております。また、この地区は低線量地域でもありますので、最先端の「再生可能エネルギー」の研究開発を行う研究機関も設置するなど、有効活用すべきであり、まずは「自然エネルギー」の弱点である「出力変動」に対応するための「高性能蓄電装置」開発に注力することとあります。

最近、日本の自動車メーカーが「マグネシウム二次電池」の開発に成功したと伝えられております。「マグネシウム電池」は現行の「リチウムイオン電池」より低コストで小型軽量と言われており期待したいところです。

次は「究極の再生可能エネルギー」と言われる「水素エネルギー」の利用拡大を図り「燃料電池車」の普及や「エコハウス」への導入を実現することとあります。国連ではすでに昨年12月に「パリ協定」を批准しており、我が国でも間もなく批准することと思いますが、素早い対応をお願いいたします。

また、最近福島県は県産木材で「木質ガス発電」をドイツと共同開発を行い、山間部での実用化を目指す動きもあり期待されます。我が国が「二酸化炭素排出ゼロ社会」関連技術開発を成功させれば、世界に大きく貢献するとともに真の「脱原発」が実現するのです。これぞ避難者の悲願でもあります。

現在双葉町は、局所的に除染を実行しておりますが、「一日も早く「ふるさと双葉」へ全町民が帰還できるように、徹底した除染とインフラの整備を行うことを熱望しております。それでこそ「暖かい春」はやってくるのです。

古室 仁（浜野）

ひんやりした秋気が心地よいこの季節。各所に避難している皆さま方、お変わりなくお過ごしのことと思います。私もおかげさまで、いわき市において変わりなく暮らしております。

よく「全力で生きる楽しさ」という言葉がありますが、ようするに毎日本気で野菜を作って自分で食べるのではなく、人に分けてやって、その人から「ありがとう、おいしかったです」というただその一声を聞く楽しさです。

私の家の周りにある野いちごがちょうど食べごろだったので、地元の小学生が学校帰りに家の前を通った時に食べていかないと声をかけると、ほっぺを真っ赤にして食べていきました。次の日、お礼にと学校で作ったプチトマトを持ってきて「いちごおいしかったです」と家に来てくれました。今度はさつまいも掘りをしようと約束をし、手を振って帰っていきました。

私もいわき市で暮らしていく中で、少しでも役に立ちたい、皆さまにお世話になり、そしてお世話をして暮らしていきたいと思ひます。

暑い所あり、寒い所あり大変ですが、お互い頑張りましょう。

朝川 洋一（渋川）



・ 名も知らぬ 虫の音哀れ 過ぐる秋
・ 霜月の 早朝明け寒し 残月白し
・ 夕茜 はぐれ子雀 ただ一羽
・ 卒寿越え 永らう生命返り見て
・ 白寿を目指し 歩巾広げん
武内 恒雄（長塚二）

人のうごき10月分

敬称略

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
藤井 賢楞	88	9月29日	新山
中里 輝雄	80	10月4日	下条
山本 茂	61	10月6日	郡山
澤上 光枝	89	10月9日	羽鳥

双葉町民の避難状況（平成28年11月1日現在）

- ・ 福島県内に避難されている方 4,082人
- ・ 福島県外に避難されている方 2,879人

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
菅本 茉央	9月14日	高章・美由季	長塚一
岡田 浩佑	9月16日	圭佑・真沙美	長塚二
渡部 世綱	9月27日	敬綱・泰恵	長塚一
渡辺 月華	9月29日	将智・有美子	下条
佐藤 茉優奈	10月7日	清一・祥子	三字
佐藤 茉里奈	10月7日	清一・祥子	三字
稲田 瑛人	10月9日	凌・美咲	三字
金森 想来	10月17日	真宗・彩	長塚二
會川 釉衣	10月20日	鉄平・敦子	下条
深谷 朱里	10月20日	崇博・裕美	長塚二

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信

第43号



「ふるさと絆通信」であなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

—想いを伝える—

ふるさと絆通信は、株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が町民の皆さんの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。掲載する文章は、インタビューの内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はありません。

【問い合わせ先】 秘書広報課 ☎ 0246-84-5202



ずっと、ふるさと。双葉町。

しが まさお
志賀 雅雄 さん

よねこ
米子 さん

(新山)



●避難先●
福島県西郷村



震災、原発事故による避難

川俣小学校、川崎市、白河市、西郷村と避難先を変えましたが、「昭和一桁」という言葉で表される世代の私やそれに近い妻にとっては、第二次世界大戦後の食糧や諸物資不足を体験していたためか、国や県等公共団体、社会の支援も受けたので、思いのほか苦にもなりません。特に、避難先では何処でも公共団体ばかりでなく、地域の皆さまに暖かく迎え入れていただきお近づきになれうれしく感謝しています。また、双葉町当局においては私たち町民へのご配慮、ご支援下さりありがたく思っています。故郷双葉の絆により当県南地方に避難している町民同士の交流もある上、避難後も大字新山地区の住民や双葉町内の知り合いとの交流も多少少なくなっているものの続いていることが心の支えになっています。

混乱の時代に迎えた人生の節目

私にとって人生の節目は次の4つです。

- 一、旧制双葉中学校の卒業と就職
- 二、大学の卒業と就職
- 三、教職を離れ民間企業への転職
- 四、震災、原発事故による避難

人は誰でもその宿命によって、変化の多い、少ないの差はありますが私は子供の時から多かったのかもしれない。旧制中学校を卒業し、公務員として食糧庁の出先機関に業務係、検査係として3年間勤めました。若き日の夢捨て難く退職し、上京、大学に進学そして卒

業しましたが、その頃、昭和30年前後は「なべぞこ景気」と呼ばれる大不況の時代であり、東京でせっかく就職できた会社が1年も経たないうち倒産してしまいました。双葉に戻りどうにか中学校の臨時職員になり小中学校の山間部の分校勤務を4年間転々としてようやく昭和35年本採用となりました。以後飯樋中、檜葉中、双葉中、小高中と24年間勤務した後、教職を離れましたが、分校勤務を含めて多くの教え子たちとの交流が今なおあることは私にとっての宝であり、精神的に落ち込みやすい避難生活の中で大きな励みになっています。教職を離れた後は民間企業に14年務め、うち12年は転勤により故郷双葉で家族と一緒に生活出来、大変幸せであったと感じています。

故郷への想い

現在、西郷村の新白河駅から徒歩5分の場合所に居を得、関東方面に居住している子や孫たちとの往来や山菜採り等で山形、会津方面へ出掛けるのには大変便利です。しかし、双葉で生活していた時のように、川、沼、海などで魚釣り、貝採り、また、自分の持ち山での山菜採り、営林のための各種作業、シイタケ栽培等が出来なくなり生活に弾力性が少し欠けました。

故郷で生活したい気持ちはありますが、帰還の目途が立たない以上、妻とともに充実した日々を送るよう努めています。



にしぎき れいこ
西崎 玲子 さん

(下条)



●避難先●
福島県いわき市

20歳代で経験した「ドクターストップ」

学校を出てから町役場職員を経て幼稚園の先生になり、浪江町内で勤務していました。当時（昭和30年代）、年長クラスを受け持っていました。若かったせいもあって、仕事は激務でした。若かったせいもあって、疲れを苦にすることはありませんでしたが、ある日、目に異常を感じたため、診察を受けたところ、緑内障と診断され、ドクターストップがかかり退職しました。

先生から「事務屋」への転身

幼稚園を辞め、しばらく静養した後、症状の改善がみられたため、たばこ耕作組合で事務員として働き始めました。結婚後も勤務しましたが、組合の統合に伴い退職し、約20年、そろばんを片手に事務仕事をする毎日から、専業主婦になりました。

しばらく、主婦としての日々を送っていましたが、知人に頼まれ、東邦銀行双葉支店で働くことになりました。欠員補充で1年間という約束でしたが、初めてとなるコンピュータの使い方を懸命に覚え、1円のミスも無く、その1年間に全うできました。

仕事が無くて助けられた命

銀行勤務を終えて間もなく、町内の医師から声をかけられ、双葉郡医師会の事務員になり、双葉看護学院の事務も兼任した

ため、試験の時期には、試験監督や採点係に動員されることもありました。

平成10年、定年で退職し、再び専業主婦に戻りました。同年、町職員だった夫が町助役に就任したため、妻として夫を支える日々となりました。平成14年、突然けいれんに襲われ入院となり、さらに翌朝、容態が悪化し急な転院となりました。職員交代の時間帯と重なり、搬送同行要員の確保が難しい時間帯でしたが、夜勤明けの看護師が救急車に同乗してくれました。その方は、私が勤務していた看護学院の卒業生で「お世話になった『事務のおばさん』の助けになれば」と自ら引き受けてくれました。けいれんの原因は腎不全。それ以来、透析を続けています。

夫との思い出が詰まった故郷を離れて

夫は助役退任後、ふたば福祉会の設立準備に携わりましたが、施設のオープンを目前にして病に倒れ、平成19年、帰らぬ人となり夫婦での老後も叶いませんでした。

避難以降、夫婦の思い出が詰まった故郷を離れて生活する日々を送っています。夫は長年、町職員として原発誘致にも携わってきましたが、こうした惨状を見ずに済んだことは、ある意味、幸せだったのかもしれない。町を離れて以降、北海道や会津で生活したこともありましたが、昨年からは、子どもや孫とともに平穏な日々を送っています。

しんく すみこ
新工 澄子 さん

(下条)



●避難先●
福島県相馬市



遅めの昼食で帰宅したときに

私は町社会福祉協議会でホームヘルパーをしていました。被災当日もいつものように、昼過ぎまで担当の利用者さん宅で勤務にあたり、遅めの昼食をとるため帰宅したところ大地震に襲われました。

激しく長い揺れが収まり、自分自身が無事であることに安堵する間もなく、児童民生委員を務めていた（現在も在任中）ため、地区の高齢者や障害者など要支援の安否確認に向かいました。

皆さんの無事を確認後、自宅に戻りましたが、大きな余震が続く中、夕方になり薄暗くなったため、明かりが灯る役場庁舎へ身を寄せました。

訳が分らない避難に右往左往

役場で一夜を明かし、自宅の片付けに向かうかと思ったとき、突然、避難指示を告げられました。とにかく町を出るようにとのことだったため、仕方なく夫とともに南相馬市小高区にある親類宅に向かい、原発事故と分らないまま、一旦帰宅したところ町に人影はなく、偶然出会った知人から、川俣町に避難所があると知り、渋滞の中で町を離れました。

我慢の日々と霞んだ空気

川俣町の避難所、さいたまスーパーアリーナを経て旧騎西高校に移りましたが、

プライバシーも確保できず、肩の力を抜けない中、その状況にひたすら我慢する日々でした。自分たち夫婦のことだけで精一杯でしたが、加須市にいた児童民生委員の一人として、できる限りの活動を続けました。

一時、東京都内に住む長男一家と同居することを考えたこともありますが、知り合いが誰も居ない中での生活に耐えられないため、避難所で生活しました。

加須市には、農地も多く、この地に定着しようかと考えたこともありましたが、故郷とは違った霞んだ空気の中、夫が体調を崩すなどしたため、平成23年5月、白河市内に移り、その後、長女一家（大熊町）や実家（南相馬市小高区）が避難している相馬市内に家を建て、現在に至っています。

故郷復興のために

今年度、町復興町民委員会に人の復興部会員として加わっています。会合は役場いわき事務所で行われますが、浜通りの北端から南端への移動は往復200キロとなり、参加への負担は小さくありません。私の世代が元氣なうちに帰還できることは難しいと思います。故郷の絆を維持しつつ、どうすれば、よりストレス無く生活できるか、次世代にどのような形で故郷を残せるかなど、故郷・双葉町の復興に向け、議論を続けたいと考えています。



おおつか けん
大塚 憲 さん

やすえ
康江 さん
(寺松)



●避難先●
横浜市磯子区

家を継いだのは「六男の私」

6人兄弟の末っ子のため、家を継ぐことは無いと思っていました。故郷を離れてから、20歳代の後半には横浜市内で学習塾を開いていました。約100人の生徒がおり、生活には十分な状態となっていた頃、父が病に倒れました。その後、六男である私が家を継ぐことになり、昭和56年12月、私たち夫婦は、2歳を迎えようとしていた長男と、生後間もない長女を連れ、実家に戻り生活を始めました。

久々となった田舎暮らしの中で

都会での生活が長く、久々の田舎暮らしに戸惑ったこともありましたが、都会育ちの妻は、私より大変だったと思います。まだ、東北新幹線や常磐自動車道は未開通で、コンビニ、インターネット、携帯電話も無い時代、妻にとって、双葉町だけでなく、相双地域全体が「未開の地」のように映っていたと思います。近所に住む同じ世代の奥さんたちとの交流や、婦人学級への参加を通して、友人や知人ができて双葉になじめるようになります。数年後には次女も誕生しました。

そうした中、私は、浪江町内に学習塾を開業しました。昭和40年代後半に生まれた団塊ジュニア世代が中学生に差しかわり始め、進学志向も高くなってきたこともあり、50人前後の生徒がおりました。

農業への転身

時代が昭和から平成に変わる頃、過疎化や耕作放棄地の増加などが問題になり始めました。自宅周辺も養蚕の衰退に伴い、荒れた桑畑が目立つようになっていました。双葉に戻ってから、自然を生かした生活をしたいと考えようになったこともあり、平成5年、同じ地区の皆さんと組合をつくり、公的助成なども活用しながら農業を始めました。特に、先輩や仲間の皆さんに教えていただきながら果樹栽培に力を入れました。浜通りでは珍しい桃の栽培を進め、皆さんに喜んでいただけるものを生産できるまでになっていました。

原発事故で失ったかけがえのない故郷

原発事故で双葉を離れてから、各地を転々として、現在は横浜市内で生活しています。被災前、野菜は自家栽培、自宅周辺の山野で採れる四季折々の山菜にも恵まれていましたが、それらは、遠い日の思い出になってしまいました。あと10歳若ければ、どこか土地を探して一からやり直すこともできたかもしれませんが、夫婦とも還暦を過ぎ、農業を再開することは、気力体力ともに難しい年齢になってしまいました。

故郷への帰還は叶いませんが、義母の介護や、近所に住む孫の面倒をみながら、せめて、子どもたちに迷惑をかけず、自立した日々を送りたいと思います。

いしざわ たくや
石澤 拓也 さん

(郡山)



●居住先●
福島県南相馬市



きっかけの一つは「ダイエット」

小学3年のとき、町スポーツ少年団の野球チームに入団しました。野球を始めたきっかけは2つあります。一つは、仲の良い友人が、同チームに小学2年のときから飛び級入団していたこと。もう一つは、ダイエットのためです。物心がついた頃には、既に肥満児だったため、子ども心に、そうした自分を何とかしたいと思ったのでしょう。なお私の場合、肥満児とはいえ、人並み以上に運動神経は発達しており、体を動かすことが得意でした。

その後、小学校卒業とともに、同チームは引退しましたが、中学校・高校と野球部に所属しました。野球を始めたきっかけの一つになった友人とは、高校まで一緒に野球を続け、お互いに社会人になった今でも、親友として交流を続けています。

あまり勉強が好きではないので

小・中学校と野球に熱中しましたが、成績も悪い方では無かったため、高校進学にあたってそれなりの選択肢はありました。しかし、元来、勉強が好きなほうではなく、手に職をつけて社会に出たいと考えていたため、小高工業高校に進学しました。

高校在学中、所属していた野球部では、県内ベスト4まで勝ち進んだこともありました。

ほぼ「ぶつつけ本番」の軟式野球大会

社会人になってから、市町村対抗軟式野球(ソフトボール)大会双葉町チームのメンバーにならないかと声をかけられ、少しでも町の明るい話題づくりに繋がればと参加しています。メンバーが各地に分散している中、大会は「ぶつつけ本番」状態です。また、野球とソフトボールは似て非なるもので、ルールが違ふところもあり、ソフトボールでは禁止されている「リード」をしてしまい、反則となってしまう場面もありました。

故郷の復興と将来のために

平成22年春、高校を卒業後し株式会社ユアテックに就職して、相双営業所(南相馬市)に勤務し配電関係の業務に携わっています。大地震と大津波の発生直後、一時、福島第一原発の復旧作業に従事したこともありましたが、原発事故後、屋外作業ができなかった時期もあります。また、多くの同世代は相双地域を離れました。両親が心配し、県外避難を勧められたこともありましたが、故郷復興の一助になりたいという気持ちが変わることはありませんでした。

南相馬で生活して約7年、会社では先輩や同僚に恵まれ、プライベートでも将来を考えられるような出会いもあり、故郷での時間を過ごすことができることを除けば、それなりに充実した日々を送ることができています。

ぼくの夢・わたしの夢



いわき市立植田小学校6年 ^{いしだ もとき} 石田 幹くん（寺松）

ぼくの将来の夢は、ゲームデザイナーになることです。その理由は、ぼくはゲームが好きなので遊ぶ側ではなく作るほうに興味を持ったからです。

勉強は少し苦手だけれど、頑張ってゲームやコンピューターの知識を身につけて行きたいと思います。

ぼくは、ゲームデザイナーになりたいので、いつも遊んでいるロールプレイングゲームや野球ゲームなど、どうしてそんなにおもしろいゲームが作れるのか知りたいです。ゲームデザイナーになれば先輩たちが作ったゲームを参考にしておもしろいゲームを作りたいと思います。

早いもので今年のカレンダーも残り1枚となりました。今月の表紙は、埼玉県加須市との友好都市盟約締結式で双方の首長と議長が盟約書への調印を交わし、出席者へ披露している場面です。友好都市を締結したことで、交流がますます盛んになり、絆をさらに深め、より良い関係が築かれていくことを願います。

10月から11月にかけて、町民の皆さんが参加される行事が数多く開催されました。どの行事においても参加された皆さんにはたくさん笑顔がみられ、避難生活の中でも楽しみを見つけて行動できることは、このような状況の中でも大事なことであり、私も見習いたいことです。

10月から県内外で開催してきました町政懇談会には、お忙しい中多数の町民の皆さまにご出席いただきありがとうございました。多くのご意見をいただき、大変有意義なものとなりました。

年末に向けて多忙な中、ますます空気が乾燥してきますので、風邪など引かれませう、また、火の元には十分お気をつけて新年をお迎えください。

編集後記



避難先から町立学校の梅檀祭へ来ていた ^{わたべ はくと} 渡部 颯斗くん（5年・羽鳥）の笑顔です。



連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式ブログ「ブログ ふたばのわ」
<http://futabanowa.wordpress.com/>

